

第六十八回古民家歴史部会歴史探訪のご案内

平成24年5月15日

古民家歴史部会 木島・原本

前回は、平成24年度企画「横浜、西区・中区・磯子区の今昔探訪」の1回目としまして、「開港横浜道・平沼水天宮・伝御所五郎丸墓・伊勢山皇大宮」を探訪しました。今回は、「岩亀稲荷・掃部山公園・井伊掃部頭銅像・野毛山公園史跡」を探訪します。ご期待ください。

記

日 時 平成24年6月7日(木) (今回も雨天決行します)。
集合場所時間 JR根岸線「桜木町駅」改札口9時50分同時出発。
参加資格 本郷ふじやま公園傷害保険適用のため登録会員に限ります。
用意する物 前回に続き町中を歩きます。交通安全にご注意下さい。
行 程 「桜木町駅」→ガス事業発祥の地→岩亀横丁・岩亀稲荷→掃部山公園・井伊掃部頭銅像・横浜能楽堂→金星太陽面経過記念碑→神奈川奉行所跡→横浜道→擁壁→中村汀女碑」→佐久間象山顕彰碑→野毛山配水池・パーマー業績銅像→美空ひばり銅像・鉄道開業記念碑・にぎわい座等→「桜木町駅」。

○食事場所；桜木町駅解散・昼食自由行動。

以上

参加：11名

第六十八回「本郷ふじやま公園古民家歴史部会」歴史探訪 横浜、西区・中区・磯子区の今昔探訪

8:00 → バス 8:02 港南駅 8:22 地 8:25
(播磨) 下見 5/17 (木) 8:25 港南駅 8:22 港南駅 8:25
7:52 (メンバー 原本、長谷川、吉田氏 参加) 8:25

「Ⅲ」6月7日(木) 岩亀稲荷・掃部山公園・井伊掃部頭銅像・野毛山公園史跡
集合場所：JR根岸線「桜木町駅」改札9時50分厳守同時出発

行程：「桜木町駅」→ガス事業発祥の地→岩亀横丁・岩亀稲荷→掃部山公園・井伊掃部頭銅像・
横浜能楽堂→金星太陽面経過記念碑→神奈川奉行所跡→横浜道→擁壁→中村汀女碑
→佐久間象山顕彰碑→野毛山配水池・パーマー業績銅像→美空ひばり銅像・鉄道開業
記念碑・にぎわい座・マッカーサー劇場・国際劇場跡等→「桜木町駅」。

食事場所：「」・TEL045——。

遺 9:55 ~ 58
9:05

1・ガス事業発祥の地 (校正門近くにレトロなガス灯と石碑)

1870年(明治3)高島喜右衛門により現在に本町小学校所在地辺りにガス会社が設立された。

神 10:07 ~ 10:13

2・岩亀横丁・岩亀稲荷

開港当時の横浜歓楽街(港崎町=ヨコハマ・関内)から高島町に移った岩亀楼(当主佐吉・岩規の人)一番売れっ子「喜遊」(亀遊説も)大夫がペリー艦隊の軍人に言い寄られたが此を拒み、「露をだにいと倭(ヤマト)の女郎花(わかぢ)ふるあめりかに袖はぬらさじ」と有名な句を残して自害した。遊女達が病に倒れ時静養した寮が岩亀横町にあり、信仰していたお稲荷様。

遺 10:20 (11分) 30

3・掃部山公園・井伊掃部頭銅像 (横浜開港実務者は岩瀬肥後守忠震=カガリ、と言われている)

井伊直弼(1815~60)は幕府の大老。1858年(安政5)大老に就任後、勅許の承認を待たずに日米修好通商条約を締結。横浜港の総責任者となった。此が後の江戸城桜門外での暗殺につながる(1860・3・3)。和歌、能、居合に通じ、とりわけ茶道では、「茶湯一会集」などの名著を残している。掃部山銅像、明治42年旧彦根藩士開港功績を顕彰して建設。

しかし、昭和18年戦争の金属回収で撤去、昭和29年(1954)世田谷の豪徳寺所蔵の井伊大老像をモデルに建設された。(慶寺丹長=ケイジ・タチヨ、父子鑄造)。

遺 10:30
○横浜能楽堂 (井伊直弼が愛好した能にちなみ「かもんやま薪能」演じられてきた)

本舞台は、明治8年(1875)、現在の東京国立博物館に程近い東京・上野岸の旧加賀藩主・前田斉泰(ナリヤス・13代藩主、大政奉還の少し前隠居)の隠居所の一角に建てられたものです。

遺 10:35 ~ 37
4 金星太陽面経過記念碑

1870年(明治7)12月9日、太陽と地球の間を金星が通過するという珍しい現象があった。日本が観測に最も適していたため、長崎にアメリカ隊、神戸にフランス隊が来日し、

横浜ではメキシコ隊と日本隊が、この野毛山と山手の丘との二つの観測地点から観測を行った。

10/10 10:37~38
5. 神奈川奉行所跡

音楽堂・青少年センター・県文化センター、この一帯は横浜港に備えて置かれた奉行所跡、1859年開港準備担当水野筑前守等55人の外国奉行全員が当初の神奈川奉行を兼任し、輪番で横浜黎明期(レイト・夜明け時代)の行政事務処理をしていた。奉行所は横浜運上所(現中区)にもあり、前者は貢粗(コウ)徴収、檢察裁判などの内政事務を、後者は外交事務を行っていた。

10/10 10:40~47
10/10 10:50
6. 横浜道・横浜道の案内板(旧道浅間下交差点近く)

横浜道開通前の東海道へは保土谷から井土ヶ谷、蒔田を通るか、神奈川から舟運しかなかった。1858年(安政5)日米修好通商条約調印によって開国に踏み切った幕府は、神奈川開港を翌年6月決めた。当時は、東海道筋から横浜への交通は非常に不便であったため、幕府は東海道筋の芝生(シヅリ)村から横浜に至る「横浜道」と呼ばれる道路を開いた。

此の道は、芝生村から湿地帯だった岡野・平沼の新田を経て戸部村まで直線道路を築き、新田間(アラタマ)、平沼、石崎(現敷島橋)の三つの橋を架け、併せて戸部坂、野毛の切通しを開き、野毛橋(現都橋)、太田橋(現吉田橋)を架けたものだった。記録によれば道幅3間(約6m)・工期突貫工事三ヶ月・欄干杉材・杭松材と言われている。

10/10 10:55~57
7. 野毛山入口擁壁(豪商旧平沼専蔵邸の石積擁壁・市認定歴史的建造物指定)
9:20
明治時代の亀甲石積の施工精度は、市内随一、明治中期の築造か。

○野毛山公園 11:00

生糸貿易で財を築いた豪商原善三郎、茂木惣兵右衛の屋敷跡地。約380本の桜あり。

9:24 11:04~05、ラジオ塔 11:06 横浜に咲いた花と花嫁の
・中村汀女碑(1900~1988・俳人・本名破摩子・熊本県生・熊本高女卒)

現代女流俳人草分け、俳句普及に貢献。句集「汀女句集」「花影」等。文化勲章。

11/10 9:27 11:10~11:11
9. 佐久間象山顕彰碑「松代藩士(信濃=長野県);幕末の兵学者・洋学者」

開国論者、横浜開港に奔走し、新しい日本の建設に尽くしたが、明治維新を見る事無く、1864年(明治元)京都で亡くなった。昭和29年開国100年を記念、顕彰碑が建てられた。

11/10 9:32~35 11:16~18
10. 野毛山配水池・パーマー業績銅像

東京利根川記念碑 11:22
(中央図書館前 11:30)

11. その他史跡 9:45 11:37

① 美空ひばり銅像(宮川町2-55、「寿屋」前にカンカン帽子姿の可愛い銅像)

最古の水道管 11:43 (2) (11:43)

② 日本最初鉄道創業の地・開業当時の横浜駅長室跡・エドモント・モレル記念碑

1872(明治5)年イギリス人技師エドモント・モレルの尽力で横浜―新橋間に日本最初の鉄道が開通した。当時の横浜駅は今の桜木町駅あたりにあった。1872年(明治5)に鉄道が開通し、当時の駅長室はここにあったそうです。この碑は地下道入口階段の左柱にあり、この絵地図で最少の碑です。

③ にぎわい座 11:47

X ④ マッカーサー劇場国際劇場跡

X ⑤ 平沼水天宮(平沼神社・平沼稻荷社, 荒神さま, 平沼天満宮, 例祭9月5日)

1839年(天保10)五代目平沼九兵衛が平沼新田の守護神として祭った事が始め。境内には、平沼稻荷社、竈三柱(カマドミナツラ)神社、平沼天満宮。毎年、湯立神事を1月5日午前10時に斉衡すると言う。此の湯を飲むと風邪を引かないと言う。

X ⑥ 伝御所五郎丸墓(供養塔)

1193年(建久4)5月28日、源頼朝が富士で巻狩りをした夜、曾我兄弟が父の仇の工藤祐徑を討ち取った。そのとき、五郎丸が曾我兄弟を祐徑の館に導き本望を遂げたと言う。

X ⑦ ブラフ積擁壁の残存ヶ所

西区; 掃部山公園外周、野毛坂切通、野毛山入口擁壁・中区; 山手町各地、神奈川区、青木町付近鉄道擁壁等。

外国人居留地としての山手地区には、1867年(慶応3)の開放以来、道路の開削や宅地の造成に伴って各地に大小の崖地が生じ、木柵による土留めから順次石積みの擁壁へと整備されていった。その多くは今なお現存している。房州石を用い、長さ70~80cm、20cm角程度の石材を一本毎に控えをとる積み方で、レンガ積みで言えば一段に長手面と小口面とを交互にみせるフランス積に似た積み方をとっており、従来の間知石積を主流とする伝統的な石積とは異なる。

居留外国人が、横浜山手を「ブラフ(bluff)」と呼んでいたので、「ブラフ積」と呼ぶようになったという。

神 ⑧ 成田山横浜別院延命院(真言宗智山派・本尊不動明王・通称野毛不動尊)

本尊不動明王。1870年(明治3)成田山新勝寺領分霊を勧請して、太田村(現南区中町)普門院境内に遙拝所を設立。同年高島喜右衛門から敷地の寄進を受け現在地に移り、成田山教会と改めた。その後、1893年(明治26)本山塔頭より寺号を点じて延命院と号した。伏見・豊川・新栄の三稻荷・さらに、役小角像(エンノオノ)・不動尊・36体童子・崖下の行水堂・修行道場などがある。

以上

(地) 桜木町駅入口 9:52

岡野公園 岩鬼稻荷・掃部山公園・井伊掃部頭銅像・野毛山公園史跡案内図

